

■ 平山郁夫シルクロード美術館 News ■

■ The Hirayama Ikuo

■ Silk Road Museum

■ News

No.22

平成29年3月発行



■ 平山郁夫《八雲立つ 出雲路古代幻想》

■ 1998年 紙本彩色 171.0×545.0cm 再興第83回院展出品作

■ 本作は「出雲路」シリーズの大作である。画題に「八雲立つ」と付けられており、これは『出雲国風土記』の神話にあらわれる八束水臣津野命(やつかみずおみづぬのみこと/オミヅヌ)^{*}が発した言葉である。正式には「八雲立つ出雲」と言われており、当地は太古の頃より雲が幾重にもかかり、神々しい雰囲気醸し出す場所でもある。平山はこの言葉に惹かれ、実際にその光景を目の当たりにできないか、そんな思いの中で出雲市周辺を何度も取材を行った。そして、ある日の早朝、現在の雲南市加茂町にある光明寺周辺で「八雲立つ」にふさわしい光景を目にし、その時の感動を著書の中で記している。

■ 「もくもくと湧き出ずる雲海が眼下に見えた。雲の上に山の嶺が処々に見せていたが、神秘的で、感動的な八雲立つ情景に言葉を失った。これぞまさしく、神話の世界であり、幻想の世界である。が、現実の世界の眺めである。きっと古代の人々は、この神秘的な美しい世界に神々を思ったのだろう。この気持ちは今も生きつづけている。神秘的であり、崇高な日本的風景である。この素晴らしい感動を絵にしようと心に刻んだ。」

(『平山郁夫画集 出雲路古代幻想』(中央公論社・1998年)より)

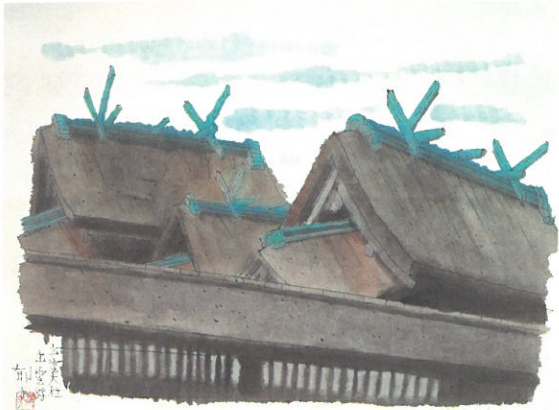
■ ^{*}「国引き神話」の中にあらわれる主人公の神。出雲の狭い国土を拡大しようと、遠方から国々を引き、現在の島根半島を形成した神でもある。



平山郁夫シルクロード美術館

「平山郁夫 出雲路古代幻想」展

2017年3月11日(土)~7月19日(水)



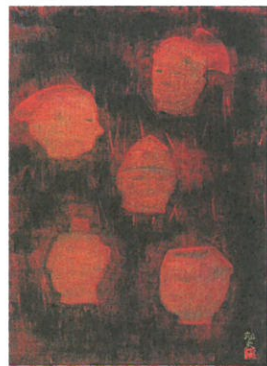
出雲大社
1996年



松江城 松江市
1996年

平山郁夫は「シルクロードの画家」として広く知られていますが、平成に入る頃から、日本の風景をテーマにした作品も数多く制作しています。特に日本中のさまざまな街道を訪ね描いた「路」のシリーズは、吉備路、熊野路、讃岐路など、失われゆく日本の美しい自然や歴史を描き残そうとした人気の連作です。なかでも、今回特集する「出雲路」の連作では、当館所蔵の「八雲立つ 出雲路古代幻想」という大作も誕生しました。本展では、この大作が生まれる背景となった「出雲路」のスケッチや素描を軸として、平山郁夫が描き出したみずみずしい日本の風景や、いにしえの日本を描いた作品の数々をご紹介します。

※表紙の作品《八雲立つ 出雲路古代幻想》も同展にて公開



埴輪幻想
1965年

Information •

- | | |
|--------|---|
| ◆会 期 | 2017年3月11日(土)～7月19日(水)
※会期中無休 |
| ◆開館時間 | 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで) |
| ◆観 覧 料 | 一般1200円／高・大学生800円／小・中学生無料
※障害者手帳をお持ちの方無料、介護の方1名まで600円
※70歳以上の方、20名様以上の団体 各100円割引 |
| ◆主 催 | 公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館 |
| ◆後 援 | 山梨県、山梨県教育委員会、北杜市、北杜市教育委員会、
朝日新聞甲府総局、山梨日日新聞社・山梨放送、信濃毎日新聞社、
八ヶ岳ジャーナル、テレビ山梨、FM富士、FM八ヶ岳 |
| ◆協 賛 | キリンビール |

次回の展覧会案内



ガラス碗 ペルシア 1-3世紀

「シルクロードの
ガラス展」

2017年7月22日(土)
～9月18日(月)

他会場で見られる平山郁夫シルクロード美術館コレクション

- ◆「ヒッタイトとメソポタミアとエマル市の人々」展
2017年4月1日(土)～5月28日(日)/古代オリエント博物館/コレクション(粘土板)52点
- ◆「雲母 KIRA 平山郁夫とシルクロードのガラス」展
2017年4月15日(土)～7月9日(日)/富山市立ガラス博物館/絵画42点、コレクション(ガラス)370点(予定)
- ◆「開館20周年記念 平山郁夫 平和の祈り」展
2017年3月18日(土)～5月21日(日)(予定)/平山郁夫美術館/絵画7点、コレクション10～15点(予定)
- ◆「平山郁夫(仮)」展
2017年9月23日(土)～11月12日(日)/上田市立美術館/絵画45点、コレクション105点(予定)
- ◆「装身具(仮)」展
10月27日(金)～11月26日(日)/横浜そごう美術館/絵画56点、コレクション217点(予定)

コーニングとは何?

平山郁夫シルクロード美術館館長
平山美知子



私は昨年10月27日から11月3日迄アメリカへ行ってきました。私が何故アメリカで版画展をしたいのか? きっとまわりの人々は、わたしがいい年をして毎日する事も無く、昔々の学生時代の版画なんか誰に見てもら

いたんだ、やっぱり年だなーと思っっていると思ひます。日々の忘れ物がひどくなるので胸につかえている事を書いておこうと思ひました。

何をやっても中途半端で両親の心配の種だった私を、長兄のお嫁に來たばかりの静子姉も(何とかしなければと思ったのか!)友人とゆく上野の国立博物館に連れて行ってくれたのです。大東亜戦争が始まり、館の重要な物は疎開されていましたが、売店にたった一冊「御物上代染織文」(正倉院、法隆寺等が秘蔵するシルクロードの布の本)がありました。当時は珍しい色刷りの大判の上下2冊の布をはった畳(たとう)の中に入っています。その様な本を見たこともないので茫然としていたと思ひます。静子姉は「ほしいなら買ったら。」といひますが、そんな高価なものを買ったこともありません。帰宅して父に言ったら叱られると思うと言ひ出す前に泣いてしまったのですが、父は「その本が勉強の足しになるなら買ひなさい。」といってくれました。父に物をねだったのは初めてでした。翌日1人で買ひについて包み紙もない様な売店でしたが私の心は少し豊かになったと思ひます。

昭和21(1946)年、美校(美校は22年から芸術大学となる)の受験に落ち、心機一転を望み奈良にゆく事になりました。10月1日から奈良国立博物館で初の正倉院展が開かれるので、前日、満員汽車に乗って奈良駅に着きました。駅で夜を過ごそうとしたのですが追ひ出され宿屋にゆきました。女の1人は泊めないと云われましたが、頑張って布団部屋に泊めてもらい、夜中から奈良博にゆきました。もう何人も並んでいたのて後に続きました。正倉院展で初めてササン朝ペルシャのカットガラス碗を見ました。初めて見たそれは心に残りました。

翌22(1947)年、美校に受かり27年に卒業しました。芸術大学日本画科の副手に選ばれたことはみな信じられなかったと思ひます。このおかげでアメリカの女性が日本画科に留学して來たのも私がお世話したので、彼女は私にアメリカへ留学しないかとすすめてくれたのです。私は英語も出来ないでアメリカ留学は止め、平山と結婚しました。私は自分の食費を稼ぐ為、女学校2校の図工の教師になりました。子ども2人に恵まれましたが平山のご両親に預かっていただき働きました。

平山は体調を悪くした時も頑張って描いた「仏教伝来」が認められ、すっかり元気になりました。おかげで私は子どもを連れ帰り主婦になったのです。2人で頑張ったおかげで結婚後4年半で成増に家を建てました。平山の画室がないと画業が進まないからです。

昭和47(1973)年8月31日、鎌倉へ引っ越ししました。平山の画室は天井が高いので、住居の方の天井裏は巾は狭くても歩けるくらいでしたので、天井裏に飾り戸棚を作ってもらいました。置く場所が出来ると平山の絵の参考になるいろいろな物が入ってきました。カット装飾ガラス碗、二重円圈文碗、その他。昭和50年頃、収集の手伝いをしてくれる山崎氏

がアメリカのコーニングガラス美術館の先生といふ背の高いアメリカの先生を連れて來ました。私たちのガラスの収集を見たいといふのです。突然だったので、山崎氏と私だけが彼を屋根裏部屋へ案内しました。先生は背が高かったので頭をぶつけない様に気を付けていました。収集といってもまだ少ししかないのに熱心に見ておられました。終わって帰られる時、「二重円圈文碗」を買ひたいと言われたのは驚きました。勿論すぐお断りしました。先生が帰られてから私たちの収集が本物だった事、日本のまだ大して有名でない画家の収集がアメリカに知られる事に驚きました。

昭和64(1984)年6月、朝日新聞社の「アエラ」誌の青柳光郎記者が訪ねてこれ、アメリカのワシントンのスミソニアン博物館群(ワシントンの広大な広場にパンダ動物園を含めて18の美術館が並んでいる。)の航空博物館に広島に原爆をおとしたエノラ・ゲイを展示することになったので、平山が中学の時その広島にいたので見に行かないかといふお誘いだったのです。平山には私と違った複雑な感慨があったと思ひます。私はすぐにコーニングガラス美術館の事が思ひ出されました。

昭和64(1989)年7月11日～16日、私たちは青柳記者の案内でアメリカのワシントンにゆきました。スミソニアン博物館の裏広場にエノラ・ゲイは先端を残して解体されていました。平山は先端の椅子に腰かけ涙ぐんでいたと思ひます。青柳記者はすばやく取材を終え、記念撮影も終わり、スミソニアンの中のサックラー美術館を拝見、銀器が素晴らしいフリーア美術館は休館でしたが中国日本の美術館が素晴らしいといふので倉庫を見せてもらいました。地下の修復室では日本人の男性2人が作品の修復をしていました。此の2人の話しを聞いた事が平山の文化財赤十字構想につながるきっかけとなったのですから、此の旅行の意義はすごかったと思ひます。それから飛行機で50分くらいかけてコーニングにゆきました。五大湖の近くといふ事です。コーニングは当時はさびれた田舎の様な感じで古いガラスの展示は平山家の屋根裏よりは立派でした。コーニングはステューベングラスを作っているのて地下の工場へゆきました。溶けたガラスが赤々ともえている炉がいくつもあって、長い鉄棒の先を炉に入れてガラスを巻きつけ外の鉄の台の上でいろいろな形に造りあげているのは見事でした。造っている男性は皆りょうとした服装で上衣はぬいでいますが、工場の職人といふより芸術家といった人たちです。ショップでステューベングラスの製品を2つ買ひ、青柳記者にもさし上げました。これは私は何も知りませんが鉛が入っているのか厚手で重いのです。金鎖がついたネックレスの高いのに驚きました。エノラ・ゲイでこんな旅行が出来たのは嬉しい事でした。

ニューヨークで版画展をするならコーニングへゆきたいと言った婆さんは何を考えているのでしょうか。日本からニューヨークに住んでいる若い夫婦と皆で10人が自動車で往復4時間半づつ、前と違って立派になったコーニングはステューベングラス製造の処は見れなくなっていました。ガラスの歴史の本やお土産品ばかりで一寸残念でしたが、この旅行を企画し、高価にならないようにいろいろ工夫してくれて本当に有難い事でした。この若者たちは実は長兄・望兄さんのお嫁さん、静子姉の孫たちなのです。静子姉さん本当に有難う。誰かがちゃんと仕組んでくれているのだと思ふと感慨深いものがあります。



撮影: chiaki kato

2016年夏の化石発掘体験報告

平山郁夫シルクロード美術館 理事長
平山 廉

2016年7月から8月にかけて『平山郁夫シルクロード美術館』では初の試みとなる「化石発掘体験」を開催しました。延べ15日間の期間中に1354名の申し込みがあるなど予想外に



発掘体験前に講師が見つかる化石について解説します。

大きな反響があり、美術館のスタッフも驚くことしきりでした。イベントの内容は、
1:中生代白亜紀の琥珀(こはく)や化石の産地として知られる岩手県久慈市の発掘調査現場の

地層(久慈層群玉川層:約9000万年前)を土納袋に詰めたものを美術館に運ぶ。

2:ビニールシートの上に土納袋の中に詰めた地層を払って参加者に化石や琥珀を探してもらう。

3:見つけた化石を講師である私や渡部真人さん(早稲田大



講師が見つけた化石や琥珀を鑑定する。化石ではなく石であることも多いが諦めないことが大事です。

学講師)が鑑定する。貴重な化石は「プレミア化石」として寄贈していただき、記念写真と共に館内に展示する。

というものでした。これを毎日11時、13時、15時スタートの3部に分けて発掘体験会を実施しました。見つけた「プレミア化石」は合計で200点にもなりましたが、恐竜(竜脚類)やワニ、首長竜(鯨竜類)、サメなどの歯、カメの甲羅、コプロライト(糞の化石)、木の実(松ぼっくり)、さらに虫?の入った琥珀などです。ほとんどの化石が日本では久慈市でしか見つからない貴重なものばかりです。参加者の皆さんは初め静かに集中して



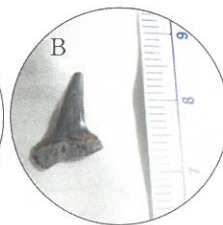
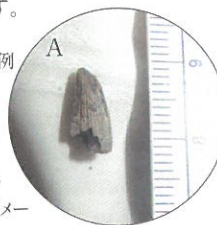
ビニールシートに上げた9000万年前の地層から化石を探しているところ。ミリ単位の細かい物も見逃さない集中力が必要です。

化石を探しています。やがて見つかった化石が「プレミア」と認定されると一気に場内のボルテージがヒートアップする変化が手に取るように分かって劇的でした。それを契機に「プレミア化石」が続々と見つかるという講師の私も手に汗を握る展開になりました。残念ながらプレミアを見つけれなかったお客さんも琥珀を見つけて満足していただいたようです。琥珀といえども、日本でも久慈でしか見つからない9000万年前の樹脂の化石です。

化石発掘体験に参加していただいた皆様、特に子供たちの熱意には感銘を受けました。イベント開催前は、これまで化石とはあまり縁のない山梨県でどれほどの反響があるのか不安だったのですが、いざ始まってみると素晴らしい感動の連続にお客さんやスタッフ一同も大喜びでした。ご来場していただいたお客様とスタッフの皆様にあらためて感謝の念を申し上げる次第です。2017年の夏もさらにパワーアップした化石発掘体験の第2弾を予定しています。ぜひ楽しみにしていただければ幸いに存じます。

「プレミア化石」の例

A:首長竜(鯨竜類という海生は虫類の仲間)で長頸竜とも呼ばれる)の歯、これでも体長3メートルはあったはず。



B:サメの歯。サメは歯の化石で一番良く見つかる。これも体長3メートルほどと推定される。



美術館の2階に「プレミア化石」を記念写真と共に貼り出しました。会期中200個以上のプレミア化石が発見されました。すごい成果です!

◆第10回平山郁夫絵画教室の開催

平成21年、平山郁夫が講師となり小学生を対象に「絵を描く楽しさを伝えたい」をテーマに「第1回平山郁夫絵画教室」を開催しました。翌年からは、北杜市と東京藝術大学の連携協定のもと、東京藝術大学の講師をお招きして授業を行い、今年も高根中学を会場に実施しました。



- ◆対象:高根中学校3年生 ①1組25名 ②2組25名 ③3組25名 ◆実施日:7月7日(木) ①1-2 ②3-4 ③5-6校時
◆主催:公益財団法人 平山郁夫シルクロード美術館 ◆協力:北杜市、北杜市教育委員会、東京藝術大学COI拠点
◆講師:劉煥昇先生、梁取 文吾(共に日本画家、東京藝術大学 社会連携センター所属)

今年は2名の講師による「日本画と文化財をより手軽に伝えるための絵画ワークショップ」を開催しました。日本画の粒子感のある下地(西嶋和紙)の上に、それぞれ思い出の写真をモノクロで事前に印刷し、その上から絵具で彩色することにより、手軽に日本画のような絵を仕上げるという内容でした。ワークショップ内では、講師による色彩のお手本の披露や、岩絵具の混ぜ方の指導、全ての作品に対する講評等も行っていました。また、東京芸大が開発した文化財複製特許技術を用いて制作した高精細複製物を鑑賞してもらい、文化を育む充実したワークショップになったかと思います。その後、完成した作品は、9月17日(土)～11月13日(日)まで、当館2Fカフェ「キャラバンサライ」にて展示しました。

◆キッズ・サライプロジェクト開始

2016年3月より、地元北杜市立長坂小学校において、「キッズ・サライプロジェクト」と題した取り組みを開始しました。本プロジェクトは、平山郁夫並びにシルクロードに関する絵画の複製品や美術品を校内数カ所に展示し、児童たちの情操教育を育むことを目的に取り組んでいます。



3月8日(火)より第1弾として、①3階用階段踊り場、②生活科室前(2階)、③音楽室前(3階)、④サポートルーム(特別支援学級)前廊下に平山絵画の複製品を展示し、10月20日(木)からは第2弾として⑤1階エントランスホールのギャラリーにてウズベキスタンのお皿の展示を実施しました。



今後は、展示替えの実施や当館スタッフが小学校に出向いて授業を行う出前授業の実施も検討しています。

◆主催:北杜市立長坂小学校 ◆協力:平山郁夫シルクロード美術館

「サライ」とは、ペルシア語で「家」や「宿」を意味します。その昔、シルクロードではラクダの隊商がオアシスを訪ね、「キャラバンサライ」と呼ばれる隊商用の宿で疲れを癒し、交流し、新たな学びを得ていました。今回の「キッズ・サライプロジェクト」は、小学校内において児童たちが美術品の展示場所を憩いの場や新たな学びの場となることを願って名付けました。



美術館スタッフ研修旅行

日時:2016年6月23日(木)

見学場所:○安曇野ちひろ美術館 ○安曇野ジャンセン美術館 ○碌山美術館
○大王わさび農場 ○信濃美術館 東館「東山魁夷」展



初夏の気持ちの良い時期にお天気にも恵まれ、北アルプスの麓、山、水を連想しつつ安曇野美術館めぐりの研修に出發です。バスの中、皆様の顔色、目の色が輝いて見えます。和やかな交流の場であり、大いに盛り上がりおりました。

安曇野ちひろ美術館は広い敷地の中にゆったりしたスペース、安曇野ジャンセン美術館と碌山美術館は緑の中にひっそり建ち、庭園と調和の取れたたたずまいに、展示されている作品が

よりいっそう引き立てられている様に思いました。それぞれの個性の光る美術館ばかりで満足でした。

大王わさび農場で、頭と心を休め、運転手さんの配慮で時間が余ったからと信濃美術館へ寄ってくださり東山魁夷展を見る事が出来、大満足。今回は特に中身の濃い有意義な研修旅行であったと思います。みなさまご苦労さまでした。ありがとうございました。

◆鎌倉文化講演会の報告

秋も深まる10月27日に文化講演会「平山郁夫 人間・文化への情熱」が鎌倉ユネスコ協会と共催で高德院大仏客殿において開催されました。評議員の前田耕作先生のご提案で鎌倉で改めて平山郁夫画伯の業績を顕彰していこうという趣旨のもと、東京芸大教授の宮廻正明先生と東京芸大特別顧問の玉井賢二氏の両先生が講師を快諾くださり迎えた当日でした。宮廻先生は「平山郁夫先生と私」のテーマで師弟関係から学ばれた数々の大切なことをご披露くださり、その受け継がれた精神はやはり平山先生の文化財保護の視点と重なるものであると満席の聴衆は強く実感したと思います。玉井氏の「シルクロードを平和の道へ」の



講演では、被爆体験を原点としながら「仏教伝来」が生まれ、薬師寺の壁画へ至る画業を振り返りながら、その根底に流れる平山郁夫画伯の平和を希求してやまない精神を会場中で共有したのではないのでしょうか。前田耕作先生のシルクロードへの深い理解のもとに繰り広げられる司会とともに、平山郁夫画伯が会場におられるような錯覚さえ覚える充実した時間となりました。

◆シルクロード研究会の報告

2月4日(土)、鎌倉市にある平山郁夫アトリエにて第7回シルクロード研究会を開催致しました。本会のテーマは「古代中央アジアの仏教遺跡における壁画」とし、当館が所蔵するキジル・ダンドゥウイック壁画断片を8点取り上げました。今回は、近年、キジル壁画の研究で活躍が目覚ましい檜山智美先生(日本学術振興会・特別研究員／龍谷大学仏教文化研究所 西域文化研究会)をお迎えし、現地の石窟に関する基本情報を交えながら、当館所蔵のキジル壁画断片について図像学の見地から解説していただきました。また、ダンドゥウイックの壁画断片については、当館学芸員の大塚裕一が描かれた図像表現(線や色彩)などから解説を行いました。二人の専門家による解説の後には、参加者全員で色彩豊かな壁画断片を間近で鑑賞。会場にいた一同、眼福を得ることができました。

なお、今回はテーマが好評であったため、座席についてもすぐに埋まってしまう、多くのキャンセル待ちが出ました。それらの方々からも開催希望のお声を頂戴したことから、2月22日(水)に再び研究会を開催致しました。



◆賛助会員を10年継続して頂いた会員の方々のご紹介

賛助会員を10年継続していただき心より感謝申し上げます。ご芳名を感謝を込めて掲載させていただきます。

家族会員 小関恒夫様 小関節子様

個人会員 渡邊幸夫様 山崎泰子様 金子哲也様 小斎富士子様

○ワークショップ



3月20日(日・祝)
「簡単日本画ワークショップ山を描く」
講師:中沢 明子
参加者:5名



4月29日(金・祝)
「型染め・手ぬぐいを染めよう」
講師:金子 仁香
参加者:11名



7月24日～8月3日
「化石発掘体験」
講師:平山廉 渡部真人
参加者:1354名



7月24日～8月31日
「アンモナイト掘り体験」
講師:ボランティアスタッフ
参加者:710名



11月5日(土)
「蒔絵・うるし体験」(一般向け)
講師:古屋 容子
参加者:14名

7月18日(月・祝)
(甲府アイメッセ・夏休み自由研究プロジェクト)
「シルクロードのストラップ&
うちわに絵を描こう」
講師:ボランティアスタッフ3名、
美術館スタッフ
参加者:小学生78名

8月7日(日)
「出張絵手紙コンテスト&うちわに
絵を描こう」(北杜ふるさと祭りにて)
講師:ボランティアスタッフ、
美術館スタッフ
参加者:小中学生64名

○コンサート



12月3日(土)
二胡コンサート
シルクロードの調べ
演奏者:姜 曉艷(ジャン ショウイェン)
参加者:158名

○ワイン&クラフトフェスタ

10月24日、25日
「シニアソムリエによるワイン講座」
講師:小牧康伸
参加者:85名
「お神楽を知るー地元敬神会による演舞と紹介ー」
舞人・楽士:敬神会
参加者:105名

○第7回絵手紙コンテスト受賞式

6月25日(土)
参加者:5名

○「第10回平山郁夫絵画教室」作品の展示

期間:9月17日(土)～11月13日(日)
高根中学校3年生75名の作品を展示

○スクールプログラム

- 4月14日 北杜市立甲陵中学校 1年生44名(展覧会見学・絵手紙コンテスト参加)
- 5月19日 中央市立玉穂中学校 32名(展覧会見学)
- 5月22日 東京外国語大学ペルシア語専攻 30名 (展覧会見学)
- 5月24日 昭和町立押原中学校 2年生2名(展覧会見学)
- 5月24日 北杜市立長坂小学校 3年生56名(展覧会見学)
- 6月 3日 北杜市立高根中学校 1年生82名(展覧会見学・絵手紙コンテスト参加)
- 7月28日 江東区立深川第八中学校 160名(展覧会見学)
- 6月 3日 高根中学校 1年生82名(展覧会見学・絵手紙コンテスト参加)
- 6月 1日 帝京大学文学部史学科 160名(展覧会見学)
- 9月 1日 慶應義塾中等部 気象と天文の会 14名(展覧会見学)

○オープニング

6月25日(土)
「平山郁夫 道遙か」展オープニング

開館カレンダー

3 March						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
			1	2	3	4
			冬季休館			
5	6	7	8	9	10	11
			冬季休館			
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

4 April						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 30	24	25	26	27	28	29

5 May						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

6 June						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

7 July						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23 30	24 31	25	26	27	28	29

8 August						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

3/11～7/19 「古代出雲路幻想」展
 7/22～9/18 「シルクロードのガラス」展
 7/23～8/6 「化石発掘」体験
 (水曜定休、7/15、16プレ開催)

9/21～12/27 「シルクロードの神と人々」展
 4/29～12/3 「カフェキャラバンサライ」営業

※3/10まで冬季休館
 ※7/20、7/21は展示替えのため休館

賛助会 だより

賛助会会員募集

賛助会は美術館の活動を支援するとともに、会員の皆様の交流をはかることを目的として発足いたしました。皆様から寄せられました会費は、展覧会の開催、講演会・講座の開催、国際交流、美術館の維持管理などに使用されます。賛助会員にはさまざまな特典(詳しくは美術館HPをご覧ください)のほか、交歓会等イベントも予定しております。皆様のご入会を心よりお待ちしております。

◆会費 個人会員…… 10,000 円
 家族会員…… 15,000 円
 法人会員…… 100,000 円

◆受付期間 随時受け付け(毎年7月に更新。12～3月までにご入会の方は初年度の年会費は半額、4～6月ご入会の方は翌年6月末日まで有効)。

◆申込方法 申込用紙に必要事項をご記入のうえ美術館にご郵送いただき、所定の銀行口座に会費をお振り込みください。申込用紙ご希望の方は、美術館HPからダウンロードするか、美術館にご請求ください。

お知らせ

「第1回シルクロード検定」 開催のお知らせ

融合と交流・対話の道であり、人類の共同繁栄に重要な貢献をしてきた道「シルクロード」この道によって築かれた人類共通の文化遺産についての知識・理解を深める「シルクロード検定」を開催します。紀元前2世紀～後6世紀、対象エリアは主にユーラシア大陸の中緯度地域(西は東地中海～東は中国を経て朝鮮半島と日本まで)とし、残された遺産の長年の調査、研究を踏まえた検定です。みなさまのチャレンジをお待ちしております。

◆シルクロード検定公式サイト:

<http://www.kentei-uketsuke.com/silkroad/>

◆開催日 2017年9月24日(日)東京・大阪会場
 (3月頃よりお申し込み受付開始)

【検定に関するお問い合わせ】

シルクロード検定運営事務局 担当:平井
 TEL:03-3233-4808 FAX:03-3233-5617
 E-mail:info_kentei@nippan.co.jp



平山郁夫シルクロード美術館

平山郁夫シルクロード美術館ニュース 第22号 平成29年3月発行

発行 公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館

〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間2000-6

Tel 0551-32-0225

URL <http://www.silkroad-museum.jp>



ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
FSC® C023103